

第2回上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事録

日時：令和2年11月30日（月）

午前10時～12時

場所：2000年会館 2階 多目的室

1 開 会

- ・委員が過半数（14名）参加により会議が成立していることについて報告

2 委員長

- ・あいさつ

3 議 事

（1）地域福祉に関するアンケート調査 調査結果報告書について

（2）上牧町地域福祉計画庁内連絡会議の報告書について

- ・事務局より、「地域福祉に関するアンケート調査 調査結果報告書」「関係団体のヒアリング結果」、資料1「上牧町地域福祉庁内連絡会議報告書」について説明

<質疑応答>

委員長：今の説明にあったように、様々な生活課題はそんなにきれいに縦に割れるわけではないので、横の繋がりをつくるための庁内連絡会議をつくっておられる。その中での現状を報告いただいた。1ページ①にも「複合的な課題」とある。高齢者の話は高齢者だけでは解決しなくて、経済的な問題や若い人達の暮らしも含まれていたり障がいのある方の話もある。そういうことに横断的にどう関わって取り組んでいくのか、この中で話し合われたのではないかなと思う。これについて、何かご質問、確認することはあるか。

（委員からの発言はなし）

- ・事務局より、資料2「上牧町住民座談会結果まとめ」について説明

委員長：こちらについて何かご質問はあるか。4つの報告をいただいた。その中で良いところもあったし、いくつか課題も見えてきた。特に共通していることも多かったと思う。この報告を集約した現状と課題について事務局から報告をお願いします。

事務局：A3の資料を元に、今からグループ内でアンケート調査の結果、座談会の結果、見えてきた課題、現状、他にもこういう課題や現状があるというご意見等をいただきながら話を進めていきたいと思う。

委員長：住民アンケート、ヒアリング、庁内連絡会、座談会について、先ほど紹介さ

れたことも含めて整理されている。この資料の左側に基本目標 1、2、3と書いてあるが、これは計画の柱になっているものである。これも見ながら、アンケートの気になること、活動しながら大事に思っていること等を話し合い、ここに書いていないことについてもご意見をいただければと思う。大事だと思うことを皆さんで話し合っただけ確認いただく時間をこれからつくりたいと思う。30分ぐらいの時間を予定している。事務局もグループに入るし、ホワイトボードも用意している。お話ししたことを書いてもらいながら、グループで話し合ったことを後ほど共有していきたいと思う。

<グループ討議（30分）>

<グループ討議結果の発表>

グループ1代表：高齢者がどんどん増えて子どもが減少していくのは世界的にどこも同じだが、それをどのように連携していくのか。また若い働く現役世代を自治会活動や地域の行事にどれぐらい取り込んでいくのかというのがある。やはり今年はコロナで、ほとんどの自治会が活動停止状態だが、お祭りとかお餅つきとか楽しい催しの時に普段参加されないお父さん・お母さん、子どもはもちろんだが、子どもだけが参加して親が参加しないのも結構あるが、その時だけでもお手伝いしてくれる人に声をかけておいて、こういう活動に取り込んでいく。そういうことをしないと、どこもほとんど高齢者がお世話しているような状態である。それから個人情報である。これがあまりにも弊害になって、認知症の人の見守り等の中で何も手出しができない状況にあると思う。個人情報の弊害をどうしていくのかということである。上牧町は24自治会あるが、自治会ありきでその中にシルバーと、小地域ネットワークはあるところとないところがあり、子ども会もほとんどのところがない状態である。このグループがどれだけ連携して、自治会として一つにまとまって活動していくかが今後の課題だと思う。

委員長：子どもの減少、若い世代の参加方法、色々なアイデアもいただいた。情報が必要だと言いながら、一方で個人情報の話がある。そこをどう乗り越えていくのかという話もいただいた。

グループ2代表：地域の希薄化が課題という話もあったが、地域では別に希薄化ではなく繋がりが結構あると感じられるところもある。ただ実際に困っておられる方がいるので、そういう方々をどう支援に繋げていくかが課題ではないか。あと地域のネットワークの活動や周知が一番大事ではないか。ボランティア活動について、行政の各課で所管しているボランティア団体が色々あるので、そのあたりをわかりやすく見えるように統一した示し方ができたら、地域福祉は推進できるのではないか。震災・災害の避難行動要支援者の制度の周知

について、高齢の方の認知度が低いこともあるが、制度の担当課どうしが連携してどのような周知をしていくかが課題ではないか。あと地域で活動されている民生委員等が孤立しないような取組が必要ではないか。現在地域で困っておられる方々で、制度で結び付けられる方は支援がしやすいが、そのあたりがはっきりしていない。どの制度で支援しているかがはっきりしていない方々に気づかれた地域の人へのアプローチ、どう協働して支援に繋げていくかが課題ではないか。あと個人情報の問題。全部ではないが、そのような意見が出ていた。

委員長：活動をどう伝えていくのか。民生委員のお話しが出ていた。民生委員だけでなく、地域のボランティア活動、自治会活動もそうかもしれないが、活動者の支えはすごく大事だと思う。そういう環境をどう町でつくっていくのか話し合ったのではないかと思う。

グループ3代表：私達のグループでは、自治会や民生委員、行政等それぞれの組織と、子どもを抱える保護者、高齢の方との連携を取ることがとても難しいのではないかという話が出ていた。特に消防からのお話しをいただいた時だが、災害等が起きた時、地域によっては隣近所に誰が住んでいて何人住んでいるか、どういう状況かということもわからず、救助の妨げになっていること。震災等の大きな災害が起きた時には、まず消防が来るよりも先に地域で助け合わないと全ての手が回らないので、地域との繋がりが大切だということを言っておられた。それから小学校の保護者の間では横の繋がりはとても素晴らしいものがあるが、そこから離れてしまうと地域の中での保護者を通した子どもとの繋がりが希薄になっていること。それからその子ども達が義務教育を出て高校生、大学生になった時には、地域で活動に参加していた保護者達も行事や色々なことの担い手にはなり得ない、なかなかそこにもう一度ボランティア等に関わることができにくい、きっかけがないという話も出ていた。私達の世代としては、全てシルバー世代におんぶに抱っこでお任せしていることが多く、次を担う何か手助けできる方法はないかという話が出ていた。

委員長：組織と子どもと高齢者の方達と、どこで繋がるかみたいな話しは他のグループでも出ていたと思うし、何かあった時の対応は日常の繋がりがすごく大きいというお話もあった。あとそのタイミングで子ども達の繋がりが親の繋がりがたくさんあるが、そこを卒業してしまうと一気に止まってしまう。アンケートでもライフスタイルの変化についてあった。女性の方はもちろん働いている方がたくさん出てきているし、上牧の中だけで仕事を終えているわけではなく、街中に出ている人がいると暮らし方も変わってきている。恐らく今の時代にあった参加方法をどう考えていけば良いのかということも課

題としていただいたのではないかと思います。このアンケートの回収率は驚異的な数字である。自由記述にこれだけ記載があるということは、期待もあるし、困っていることも含めて書かれていると思う。アンケートの声や直接の声も大事にしたいし、一気にクリアではできないので、1つでも2つでもそこを乗り越える方法について皆さんと考えながら盛り込んでいければと思った。

(4) 計画書の目次構成(案)について

- ・事務局より、資料3「計画書の目次構成(案)」について説明

事務局説明後、グループ討議

事務局：委員の皆さんには、これから体系案についてグループでお話し合いいただきたいと考えている。また本日報告した住民アンケート調査や、関係団体へのヒアリング、庁内連絡会議、座談会からの課題を参考に、施策の柱そしてそれを実現するための実施計画についてご意見を頂戴したいと考えている。

<グループ討議(20分)>

<グループ討議結果の発表>

グループ3代表：うちは男の子が2人いるが、長男である8歳の子が自閉症で、ポケットに声をかけていただいて初めてわかったのだが、そもそもそこで声をかけてもらわなければずっと気づくのは後になったのではないか。それとここに来ることができないお母さんにそれに気づくきっかけが定期健診以外でもあれば良いと思う。あとそれがわかった後、診断がおりて受給者証とかをもらって定期的に療育を受けるのだが、療育関係の情報交換や、入園の時にどこの幼稚園にどうやって行けばいいのか、そもそも上牧小学校に行っているのか、支援学校に行くべきなのかの判断をどうするべきか。誰に聞いていいのかわからず、あちこち走り回って聞いている状態だった。自治体の窓口で相談できる場所があれば安心して過ごすことができるというお話しをさせていただいた。

委員長：ポケットで声をかけてもらえたことをラッキーで終わらせてしまうといけない。上牧町内で何か困った時に行ける場所、今のお話しは相談窓口だけではなく、例えば地域の方達を支えられる場所、そもそも障がいについて知らない方も多いと思うので、そういうことを知る機会や出会う機会も合わせてあれば良いと思いながら聞いていた。

グループ2：私達のグループでは、前段で出たいくつかのテーマで特に大きいトピックス2つが話し合われた。1点目は、民生委員等最前線で誰かを支えてくれている方、その支える人を支える仕組みが必要ということである。地域の中で自治会との連携、地縁団体との連携、あと団体だけではなく地域の人のことを

とてもよく知っておられる民生委員のOBの方等、そういう方としっかり連携して個人情報のこともあるが、情報が共有できるようにすると地域の中で生きた情報が行き交って、それがご本人や最前線で活動する民生委員等を助けることに繋がるのではないか。そういう仕組みができたらいいなという話しが出た。2点目は、次世代のボランティアをどう増やしていくのかが上牧町では大きなテーマだということである。上牧町のボランティアはとても活発で県内でも評価が高いという話しもあった。そういう意味でもこれを次の世代に繋いでいくことはとても大事なテーマだが、是非横断的に、分野を問わず繋がれる交流会のようなものができたらいいなという話しや、ここへ行けば町内のボランティアのことが全部わかるような、コンシェルジュのような場所があればいいよねという話しもあった。一覧表もできているという話しもあったので、それも生かしていけたらと思う。あと次世代と言っても子育て中は色々と時間に制約等もあるが、次世代向けの入り口があるといいということなので、あまり福祉だけにこだわらず興味を持てたり、あまり福祉、福祉していないようなきっかけがあるといいのではないかという話しをした。

委員長：活動者を支える仕組みは非常に大事である。1回きりではなく、5～10年楽しく続けていくにはどうするのか。色々な活動があるので、そこが繋がっていけるような機会、交流会の話もあった。若い世代の人達に福祉のボランティアはハードルが高いが、福祉だけじゃない入口から暮らしや福祉に繋がっていくことも大事だと思う。

グループ1：次世代向けのボランティアについて話があったが、この班では退職者にどうやって繋ぐのか、言葉は違うが同じような内容が出てきたと思う。認知症で徘徊される方がいた場合にQRコードがあるようである。そのようなことをどれだけ周知するのか。それからアンケートで出た課題は、しっかり見ればほとんど広報等を書いてあることだが見逃している。それを皆にどう見てもらえるか。その方法について出ていたかと思う。

委員長：若い世代の参加の機会と、仕事を終えられて次のステージで活躍される場所や機会をどうつくっていくのかという話しがあった。併せて広報等も含めて、色々な情報が上牧町にはたくさんある。逆にあり過ぎてということもある。自分が関心のあることは拾っているが、知らないこともたくさんあるのでどう伝えるのか。中味もそうだろうし方法もそうかもしれない。世代によって伝え方も変わるかもしれないし、全部インターネットにすればいいという話ではなくて口コミも大事だったりもする。今までも伝えることは大事だと言いつつ続けているが、本当に必要な人達にどう届けるのか、また困っている人達

の声をどう掴むのか、両方の話があったのではないかと思う。皆さんの声をこの計画に盛り込んでいきたいと思っている。今回大きな枠組みとしてたたきを作っていたが、今のお話しも含めて中味を詰めていければと思う。計画は策定の時にも参加するし、できあがったらそれを使って生かしていくことに繋いでいければいいと思っている。

(5) その他

事務局：次回の策定委員会の日程についてご案内する。

次回策定委員会を来年1月末頃に予定している。具体的な日程等が決定次第、改めてご案内する。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

これをもって第2回上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を終了したい。

4 閉 会